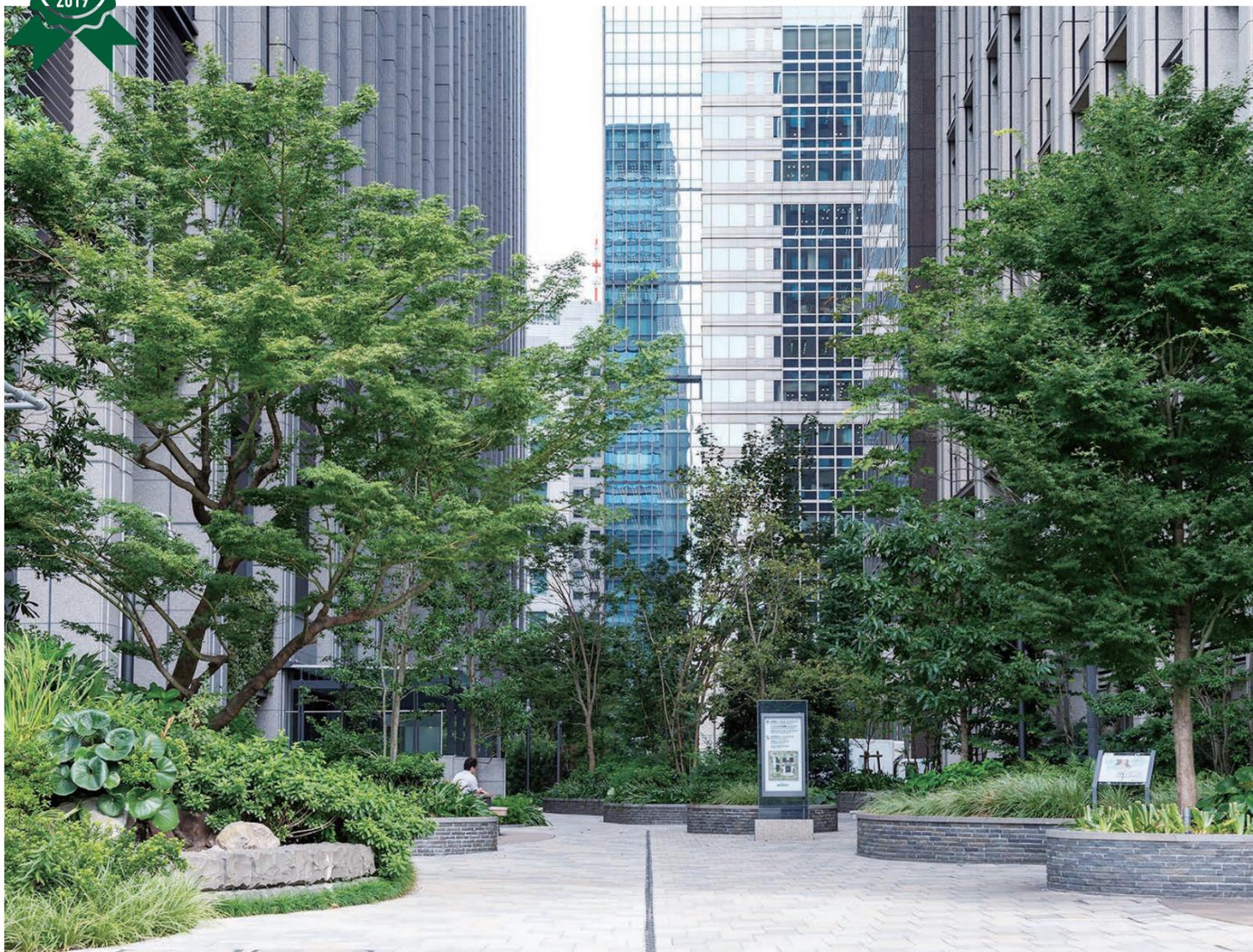




優 秀 賞

設計部門



ホトリア広場 (大手門タワー・JXビル、大手町パークビル)

株式会社三菱地所設計

プロジェクト統括：山極裕史
ランドスケープ担当：植田直樹・松榮宏幸
建築担当：宮地弘毅・高田慎也・小池秋彦

皇居大手門の目の前に整備されたランドスケープ、ホトリア広場は、大手門タワー・JXビルと大手町パークビルの2つの敷地を繋ぐ約3,000m²のオープンスペースです。自然豊かで貴重な生物の生息も確認されている皇居東御苑に面しており、その皇居が育む多様な生物のネットワークを大手町方面に広げ

る起点となる役割を担うことが最も望ましい地域環境への取り組みであると考えました。さらに都市のコミュニティ空間に生き物の生息環境を落とし込むことで、「人と人」、「人と街」、「人と自然」が相互に絡み合うことを期待し、「交流の森」をテーマとした共存空間を創出しています。

計画段階では、地歴を読み解き、周辺環境とのシームレスな相互関係を築き上げる広場となるよう、既存建物の解体前に周辺を含めた植物、生物のモニタリングを実施し、計画地内で活用できる樹木を移植保全しました。また、モニタリングに基づき指標

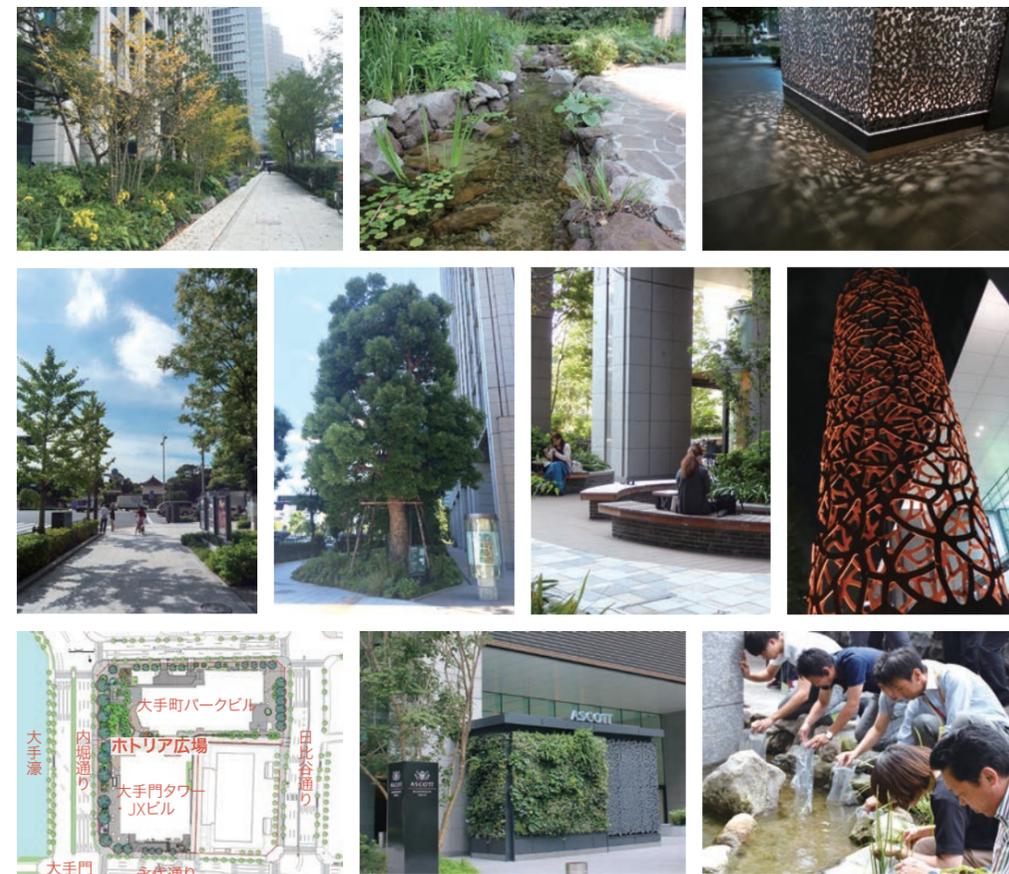
2つの敷地を一体的に整備したホトリア広場
Photo :
LANDSCAPE
DESIGN no.117 より
/撮影=牛尾幹太

作品概要

作品名—— ホトリア広場
(大手門タワー・JXビル、大手町パークビル)
所在地—— 大手門タワー・JXビル:東京都千代田区大手町1-1-2
大手町パークビル:東京都千代田区大手町1-1-1
発注—— 大手門タワー・JXビル:JXTGホールディングス株式会社
(旧:JXホールディングス株式会社)、三菱地所株式会社、
大手町デベロップメント特定目的会社
大手町パークビル:三菱地所株式会社
設計監理—— 株式会社三菱地所設計
設計期間—— 2010年4月~2014年3月
施工期間—— 大手門タワー・JXビル/2013年2月~2015年11月
大手町パークビル/2014年4月~2017年1月
規模—— ホトリア広場 約3,000平米

作品評

本作品は、皇居外苑に面した大手門タワー・JXビルと大手町パークビルディングの敷地をつなぐオープンスペースである「ホトリア広場」の計画設計及び監理を行った業務である。
応募者は、大手町の歴史的景観や皇居外苑の自然環境を尊重し、地歴の読み解きや生態調査などを踏まえた検証などから導いた論理的な方向性をもとに、生物多様性を育む環境と来街者・オフィスワーカーのアクティビティをトータルに捉えた空間としてデザインし、魅力的な「ホトリア広場」を創出している。
また、皇居外苑の水質浄化に貢献する施設の整備や、生物の生息環境を維持するための参加型取組みを積極的に導入するなど、環境共生型のコミュニティ交流が実践されており、いわば日本の伝統的なパブリックマインドに根ざした都市空間をフィールドとした新たな試みといえる。今後のコミュニティ交流の広がりが期待される作品である。



さまざまなシーンを育み、人と生きものが共存する就労環境がビルの個性を創っている

種を定め、皇居を起点とする生物ネットワークの構築を計画しました。皇居石積みをモチーフとする生物の生息のために設けた石積みは、空隙の多い空積みとしています。構造的な安全性を担保するために積石は背面構造体へ金物固定を行っています。水の流れは生物が生息できる環境形成と同時に安心して水に触れることができるよう、紫外線による大腸菌などの滅菌対策を施すなど、人と生物が共存するためのさまざまな配慮を行っています。

コミュニティ空間は、広場に面する環境情報発信施設の関係者とワーキングを重ね、広場と施設がシームレスに活用できる

ギャザリングスペースを配置しました。また同時に災害時にも避難所として活用できるよう、マンホールトイレや災害活動テントを設置できる設えとなっています。

竣工後もお濠に眠る貴重な水草の復元やお濠で捕獲した在来生物の放流、ワーカーによる生物モニタリング、防災訓練などが定期的に行われ、憩い空間としての利用に留まらず環境教育やコミュニティ形成の場として幅広く活用されており、多様な就労環境が求められる現代においてワークスペースの一つとして個性を創出しています。

設計部門